

ワークショップ 11

「あたらしい内視鏡診断、治療法をめざして ―腫瘍性疾患、機能性疾患を含め―」

司会 岡田裕之（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科）

浦岡俊夫（群馬大学大学院医学系研究科 医学部医学科）

消化管内視鏡による病変の検出・診断技術の進歩は近年目覚ましく、AI を活用した診断支援や分子イメージング技術の導入・応用も注目されている。また、低侵襲治療を目指した ESD や LECS は従来の内視鏡治療の概念を変え、ロボット技術や再生医療の応用は内視鏡治療のさらなる発展を期待させる。腫瘍以外に POEM を代表とする機能性疾患への新しい内視鏡治療は、その病態解明にも寄与している。

本ワークショップでは、腫瘍性および機能性疾患に対する新たな内視鏡診断や治療法を目指した取り組みについて、可能性や課題などを含めてご発表いただきたい。